

回復期リハビリテーション病棟での転倒予防における意識の違いについて —リハスタッフと病棟スタッフとの比較から—

(医)南東北春日リハビリテーション病院

リハビリテーション科

東原直美、高橋香織、小松雅也、根本悠平、平野雄三

【はじめに】

回復期リハ病棟では機能回復を図り、再び自立した生活が送れる事を目標としている。しかしその一方、転倒リスクが課題となっており、当院でも病床数 60 床に対し月平均約 40 件の転倒が起きている。転倒対策は行っているが、十分な結果が得られていないのが現状である。そこで実際に職員の意識として転倒リスクをどう捉えているのかを把握し、特にリハスタッフと病棟スタッフに違いがあるのかを調査した。

【目 的】

リハスタッフと病棟スタッフ両者の転倒に対する意識を調査・検討し今後の転倒予防に活用する。

【対象・方法】

リハスタッフ 20 名、病棟スタッフ(看護師、介護職員)28 名に対し転倒に関するアンケートを実施し、結果を比較した。

【結 果】

Q1 患者様の転倒予防対策について

・されている……………病棟群	<u>81%</u>	リハ群	55%
・されていない……………	19%		45%

Q2 病棟での転倒に不安はあるか

・不安ある……………病棟群	<u>100%</u>	リハ群	<u>95%</u>
・不安ない……………	0%		5%

Q3 申し送り内容は伝わっているか

・伝わっている……………病棟群	<u>67%</u>	リハ群	30%
・伝わっていない……………	33%		<u>70%</u>

Q4 患者様全員の活動状態を把握しているか

・把握している……………病棟群	<u>85%</u>	リハ群	15%
・把握していない……………	15%		<u>85%</u>

【考 察】

結果より転倒に対する意識の違いがみられ、リハスタッフは自身が病棟場面での転倒への配慮が不十分と認識しており、一方病棟スタッフは転倒対策は行っているが、不安はぬぐえないという結果であった。これらの背景としては、リハスタッフは訓練室中心の関わりであり、夜間も含めた病室での行動状況の把握が不十分である事が消極意見へと繋がったものと考えられる。また、病棟スタッフは現場で常に転倒リスクと隣り合わせの状況で、何とかしなければという不安が第一にあると思われる。今後リハスタッフと病棟スタッフが転倒に対する危機意識を共有する事が転倒対策の第一歩と考える。今後この連携に対する具体的な対策について検討していきたい。